

パテントMAP～新製品強化法

(社)日本能率協会 専任講師 中村 茂弘

詳細は URL:<http://home.catv.ne.jp/dd/aqcdltdr>をご参照下さい。

- 1 , 新製品開発強化～伸長のための特許制度の利用法
- 2 , 統計解析式パテントMAPが持つ問題
- 3 , パテントMAP作成～新製品強化の基本要素
- 4 , パテントMAP解析への3種の要求～有用なアイデア発想法
時系列MAP, 技術MAP, CSニーズ分析式MAP
- 5 , 経営戦略直結型、スピード特許戦略展開法
マトリックスMAP解析, 技術・権利解析MAP,
早期出願対策

1, 新製品開発強化～伸長のための特許制度の利用法

設問1 特許情報が持つ特徴

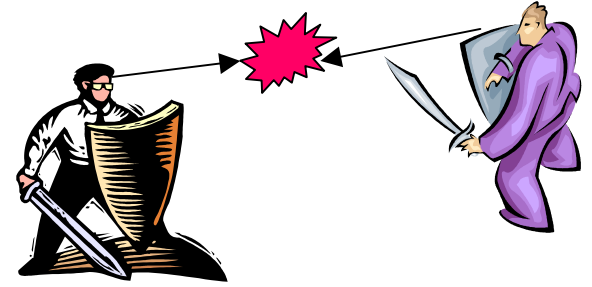
特許戦略は各社、新製品、新技術開発に取り組む企業では、他の、マネジメント活動と同等、極めて重要な対策が要求される。特に、権利を有する、この技術情報は、ライバル企業だけでなく、異業種から新規分野への参入の監視を含め、注視しなければならない多くの要素を持つ。では、まず、特許制度について簡単に示し、この種、特許情報が持つ情報としての特長を記載して下さい(なお、個人趣味的に出願を行う例があるが、この種の出願情報は除外し、産業界で各社に影響を及ぼす対に限定する)。

記載欄

設問2

特許係争対策

特許というと、権利上の争いがからむ事件が頻繁に報道される状況だが、特許訴訟を受けた企業が取的方向は究極、大きく分けて3つの道しか無い状況である。では、その種、3つの道とは、どのような対策手段なのか？項目を挙げ、簡単に解説して下さい。



記載欄

設問3

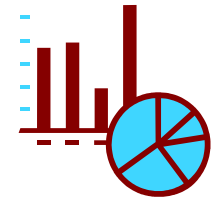
パテントロール

パテント・ロールは、北欧の伝説にあるが、洞穴や地下などに住む、奇怪な怪物(巨人・小人)を意味する。昨今、発明者が特許だけを出し、網を張り、製品化を進める企業をネットワーク的に網を張り監視するところがある。ここでは、新製品がやがて市場に出て売上を増した段階で訴訟を起こし、一網打尽に世界的に売れる製品・技術に対する特許侵害を起こして(専門的に業として訴訟を行うブローカーがいる)、漁夫の利を得ようとする活動である。では、このような内容に対して、事例や各社の取り組み、対策の要点などを記載して下さい。



記載欄

2, 統計解析式パテントMAPが持つ問題



設問4 統計解析によるパテントMAPの扱い

産業界にパテントMAPと呼ばれるものには2種類ある。ひとつは、特許出願に対し、多くの統計解析手法を用いて図化の工夫をして、出願や新規取り組みに関する評論を解説した例、もうひとつは筆者達が進める、泥臭いが重要特許を解析し、技術や権利の要点をまとめながら新らた、また、具体的な新製品分野を検討～評価して、具体的出願対策と共に、新製品・新技術創出を図る努力を進める方法(参考資料:筆者著、発明協会発行「経営直結！特許地図作成法」)である。

では、まず、過去、筆者も盛んに行った経験があったが、前者の「出願特許を統計解析法」について具体的解析と、その解析の結果、どのような内容が期待できるか(出来ない場合は欠点)を例示して下さい。

3 , パテントMAP作成 ~ 新製品強化の基本要素

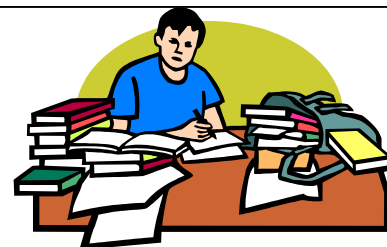
設問5

目的思考による特許情報加工の必要性

かつて製造現場の改善を売り込む機関が、『ターンキーシステム』という玉手箱をPRしたことがあった。この方式は製造ライン革新システムを導入すれば、夢のように工場の生産性があがるという内容だが、同じように、TRIZ(Theory of Inventive Problem Solving)が新製品開発の業界で騒がれたとき、「この手法を使えば、望む新製品はたちどころに、ITの裏側から登場する」という錯覚が起きた。事実、多くの企業はこのIT + アイデア検索法を利用した取り組みや研修会が盛んになった。だが、この種の手法は活用の状況で大きな差が出た。要は、この種の手法は、しっかりした目的と、目標、アウトプット(成果物)のイメージを持たずに取り組むと、活用効果が出ないという危険を示唆する内容である。

では、特許情報の検索 ~ 活用に当たって、情報を有効に役立てて、何か具体的な技術や製品改善や革新を得る上で、特許情報の検索、読み方、情報加工法について、主な運用上の注意点を記載下さい。

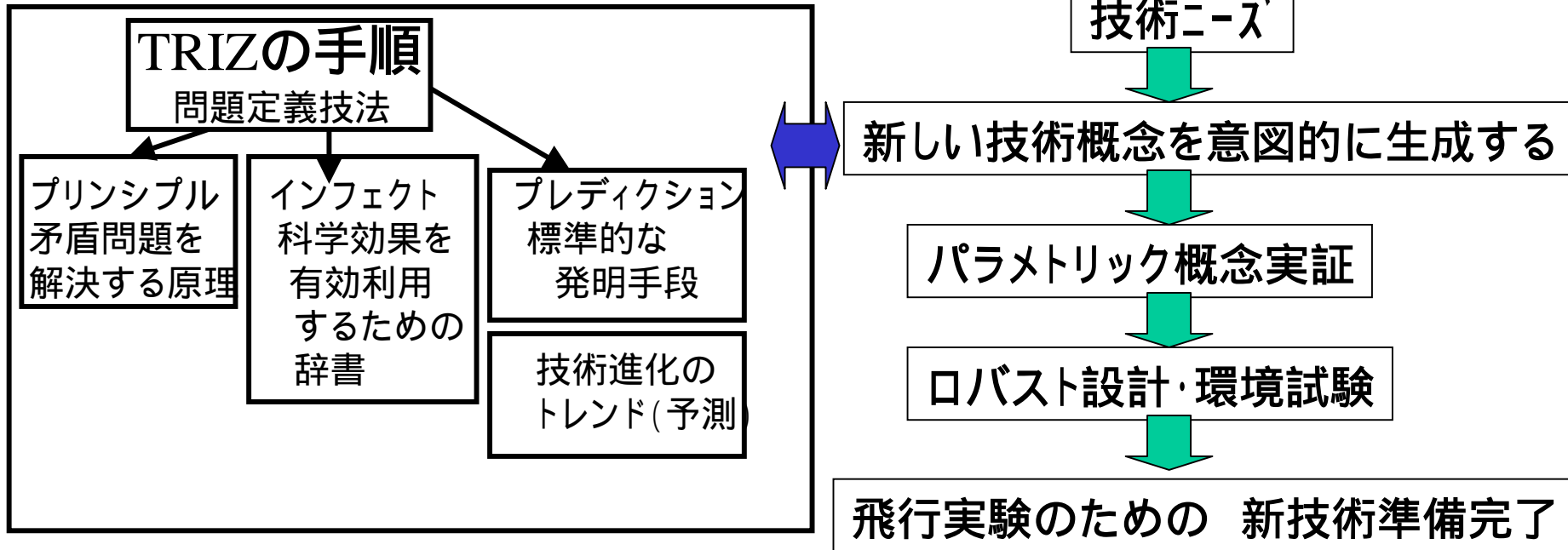
記載欄



TRIZの生い立ち

ロシア人ゲンリッヒ・アルツシューラーが理論体系化した膨大な特許を統計的に解析し、発明を引き出す内容としたものを米国NASAが注目、研究開発のスピード化を実現した内容として注目をあびてきたもの。TRIZ:Theory of Inventive Problem Solving の略

NASAにおける問題解決手順



TRIZの構成

三菱総合研究所知的創造研究部編著山田郁夫監修
日本実業出版販売「図解TRIZ」を参考として

設問6

マーケット情報と特許情報のリンク

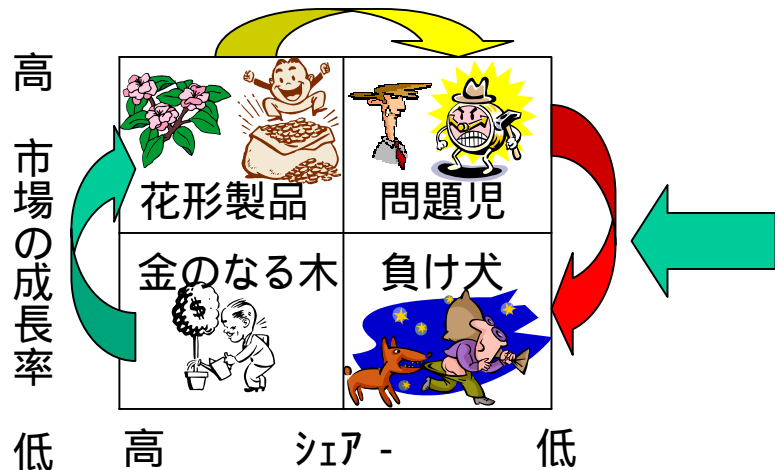


発明・技術的には優秀な特許でも、究極的には「技術を人々や世界平和に役立
てる」という具体的な存在を見て、始めて特許が役立つということになるのではな
いだろうか？このように見ると、リエゾン活動の名のもと、単に役に立たない特許
出願を進めることは多くの疑問が含まれる。また、このように見ると、数十年後を見た技術開発に関する
特許は別として、技術が売れる = 製品や問題解決技術として産業界である程度の売上となる特許、とい
う視点で特許情報の評価が必要になる。また、市場の解析から、伸びる分野や、現状技術の代替や発
展を評価に入れた解析が必要となり、マーケティング解析の手法を利用した特許解析が、このような
目的には、直接的であり、有効な対策と目される。話は長くなったが、では、パテントMAPという新製品
・新技術の開発に当たって、情報を効果的にまとめ、利用して行く上で参考になりそうなマーケティング
手法を例示して、利用ガイドの形で利用の要点を記載して下さい。

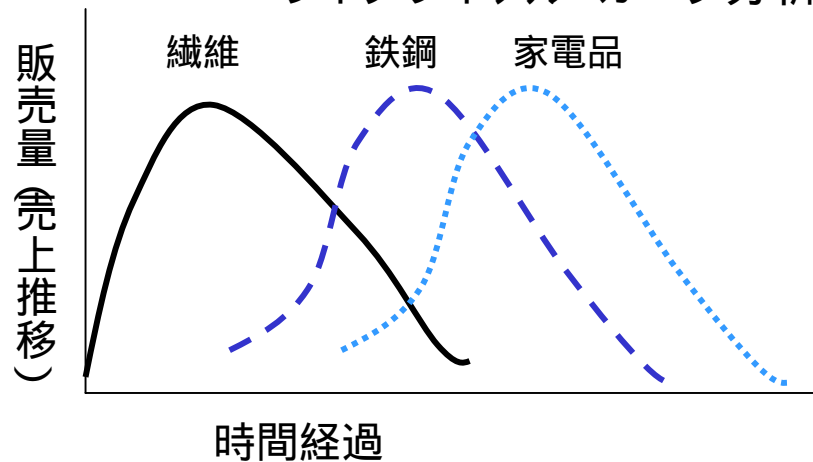
記載欄

マーケティング解析手法の例 (PPMを例として)

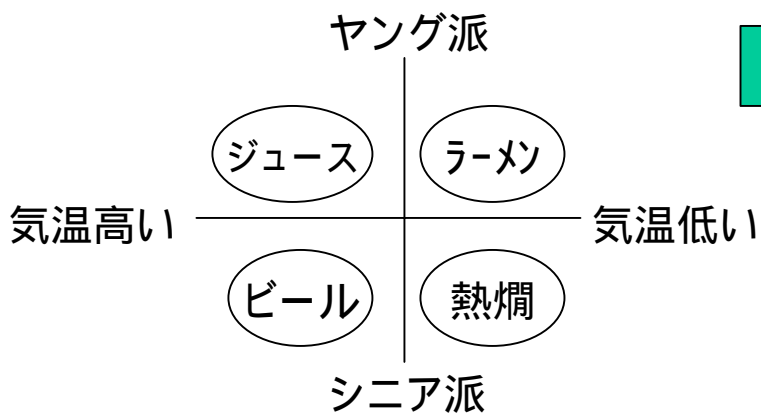
PPM分析図



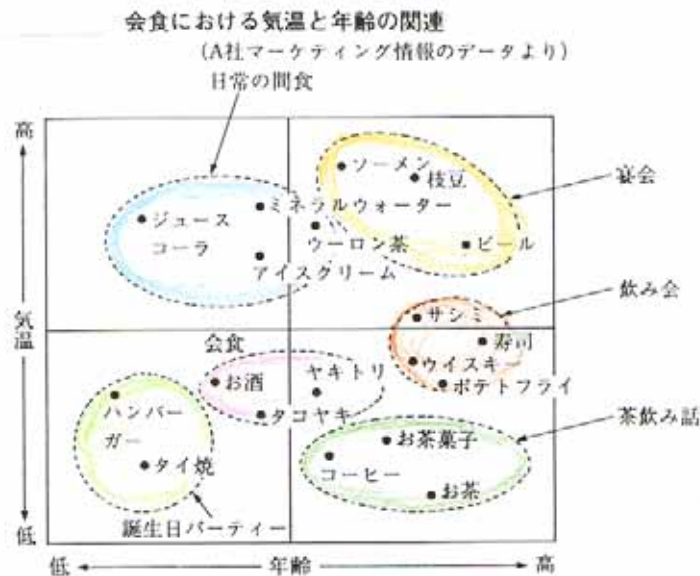
ライフサイクル・カーブ分析図



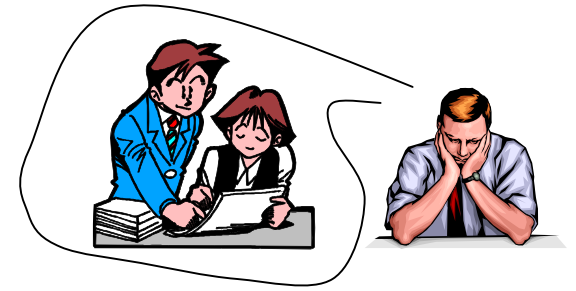
セグメント分析図



解析例



4 , パテントMAP解析への3種の要求 ~ 有用なアイデア発想法



設問7 情報加工の3つの視点

パテントMAPという技術情報の解析には、3つの方法があるが、この3つの見方で特許情報を解析するとき、どのような視点で解析することが要点となるか？ 主要な視点(切り口の入れ方)ということで、項目や、その項目活用上の要点を記載して下さい。

時系列的に見て(トレンド分析により)による方法

技術的な見地から情報を分析する方法

顧客志向で得たキーワード(機能)から新たな視点でアイデア創出を図るため分析する方法

記載欄

設問8

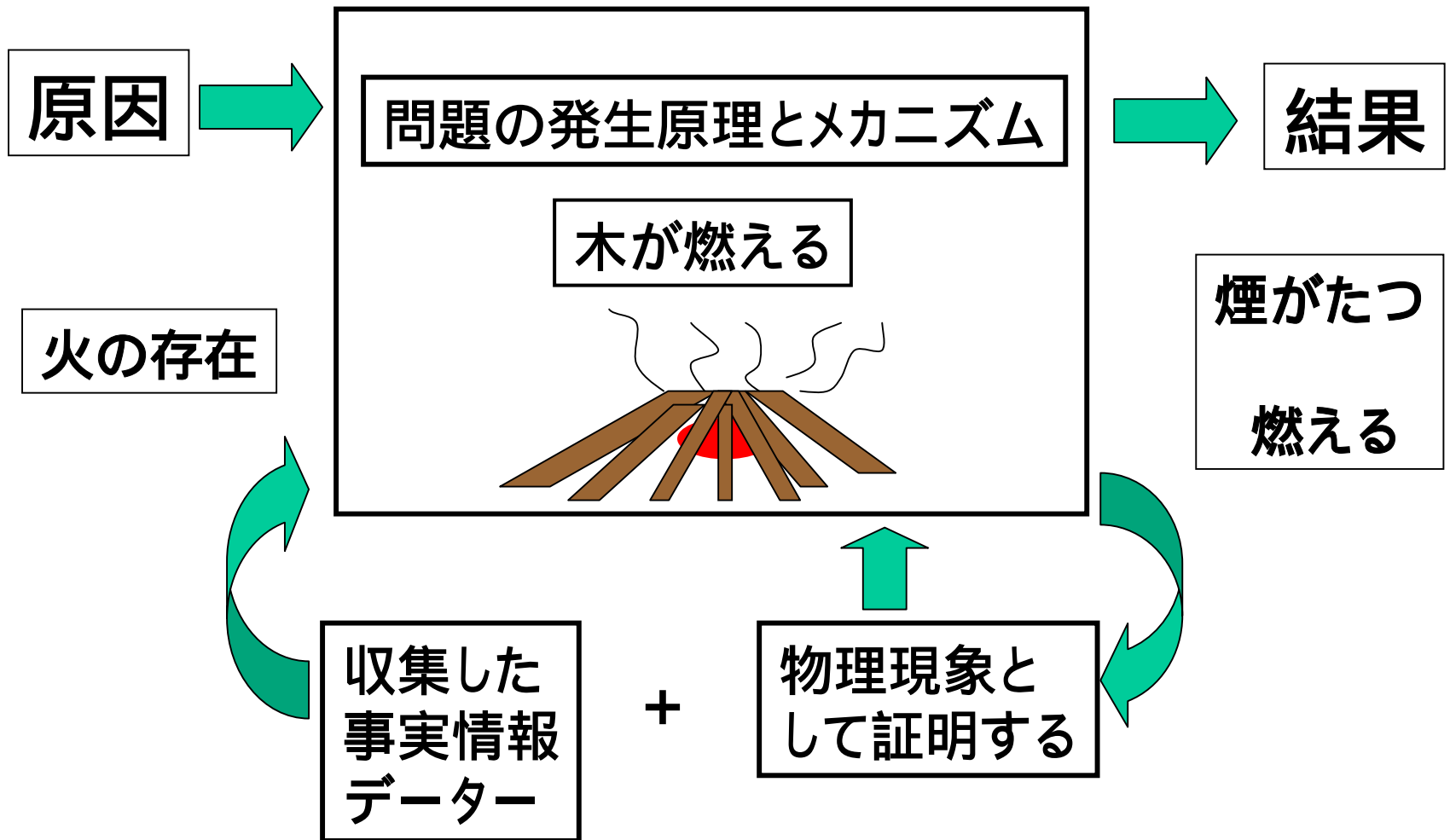
原理図化法

パテントMAPは各種の技術や製品に対して、目的(解析や、個々の発明が持つ目的)、技術的な構成(問題解決に至る各種の手段や処理プロセスなど)、作用、効果、応用(適用)範囲などを利点や欠点、また、権利の狭小などと共に描いて、(1)現在までに存在する各種技術の特長、(2)重点分野、(3)穴場といえるような未開拓分野や早期開発状況などを明示する必要があるが、この種の内容を文章で解説するより、「目で見て判る方式」を駆使して図化した表現を採ることが、技術検討のスピードと的確性をより有効にする。このような理由から、技術解析MAPでは図化法を用いる。では、特許情報を具体的、視覚的にまとめ、上記の内容を満たす図化の例を記載して下さい(単なる統計解析による図化法は、どのように立派な図でも、上述の目的では無いので、ここでは除外して下さい)。



記載欄

原理図化法による表現方法の例



特許情報は物理現象としての解析と事実を基とした物理現象の成立条件の証明が必要になる
しかも、子供が見ても解るまで物理的メカニズムとして発生原因と結果の関係が示せたとしたら、
その事が問題解決原理がよく示せた、という実証になる。そこで技術MAPにおいては、この種の
解析を行った図を明示することにする。

設問9

特許公報の利用法(読むコツ)

パテントMAP作成に他社を含め、多くの技術情報と共に解読する特許公報は、技術情報として有効な内容を多く持つ。だが、ライバルに内容をつかみ難くする目的、または、弁理士の方が記載処理するという手続き、さらに、ある種の法に従った記載が法律解釈上で必要なためか？とにかく、慣れない方にとっては、解析に、多大な手間を要する例が多い。そこで、「既に出願された公報は過去の技術」という観点で、この種の情報を利用する皆様が、迅速、かつ、有効に要点を利用して行く読み方と利用法を示して下さい。なお、ここでは、抵触の有無を法的に解釈する対策は、パテントMAP作成後、技術体系の全体と個々を見て、その対象を位置付けた後に行うと仮定します)。

記載欄



設問10

情報の絞込み

「木を見て森を見ず」という言があるが、全体と個々をバランスよくとらえた後、的確な行動を選択すべきことを示唆した言葉である。特許情報も、現在は、IT検索でいろいろな角度から素早く情報入手が出来る。だが、逆に、このことが、目的を見失ったり、目の前にある情報に振り回された結果、良いアイデアを得る機会も失うことになる危険性が高い。特許は早期検討～有効特許の早期出願が重要であり、どの道、1.5年という、出願～公開の期間に存在する公報の閲覧は出来ない。また、係争に至った場合、その措置は、先の設問2の対処しか無い。そこで、公報を読む前に情報の絞込みを効果的に行い、解析～検討を進めた後、必要な分野の再調査をすべきとなる。では、特許情報を含め、各種技術情報を絞り込んで活用して行くための要点を、パテントMAP作成～活用という見地から要点をまとめて下さい。

記載欄



5 , 経営戦略直結型、スピード特許戦略展開法



設問 11

マトリックスの戦略的MAP活用

特許の多くは、新ニーズへの対応を含め、何らかの問題解決を目的にしている。これに対し、各社で技術検討～対策を進める技術・開発陣の方々は問題解決手段を駆使して創案～試作～製品や技術の実現に努力する。また、その過程で権利保護の必要上、特許の早期出願を進めるわけだが、この内容を単純に戦略図にするならば、問題を縦軸：対策技術を横軸にしたマトリックス構成を行い、その解析で重点部を整理して、ここの技術分野の詳細検討を進めるという構成が極めて自然の形となる。では、この種の構成を具体的にどのように進めるか？について、あるテーマを想定して、対処内容を示して下さい。

記載欄

設問12

パテントMAPの図の表現方法の工夫

パテント(特許) + MAP(地図)は、新製品開発戦略を補佐する企画書的な位置づけを持つ。そうになると、解りやすく、重点部分や問題点、さらには、技術開発の方向の妥当性、さらには、検討すべき分野と対策案を地図上に明示して、研究・技術・製品開発を間違えなく正しい方向へ向けるための意志決定がなされる資料としての表現が必要になる。この形態は、過去、多くの戦場で軍師や領主が集まり、1枚の地図を目前にした戦略～戦術の検討に似た内容だが、その地図上に各種検討要素を解り易く表現する必要がある。そこで、パテントMAPに対し、情報の理論なども駆使して、どのような表現を加えることが有効か？という視点から表現方法の工夫点を示して下さい。

記載欄

設問 13

飛躍的なアイデア発想法への工夫

調査した特許情報は、パテントMAP作成後に権利面や技術のカバー域を検討することに仕様されるが、一般に、企業文化や技術、顧客が企業に寄せるニーズの違いなどから、「このような技術内容なら、我が社ではこうすべきと考える！」としてアイデア発想に利用するケースが多い。また、特許侵害の回避からも、その種の発想とアイデア発想法を採ることが重要になる。では、具体的にこの種の対策を進める上で有効になるチェックポイントを例示して下さい。

記載欄



設問14

調査した特許情報～異種アイデア創出の工夫

調査した特許情報はパテントMAP作成と共に、対象として狙いをつけた製品や技術分野の現状把握的な役割を持つが、この種の表現は地図で言うなら、単に白地図を揃えたに過ぎない。この白地図に色や形、レゴやマークなどを付け、例えば、観光地図であれば見学で有名な場所の絵やイラストを施すことにより、何をすべきかを明確化して、地図を利用した各種の企画が地図上に描かれることになる。パテントMAPは、この種の取り組みがアイデア発想となるが、特徴的な点は、他社、その道の専門家、学会や業界で検討されてきた発想と異なるアイデアを検討する必要性が生じる例が多いが、異なる発想を得るために工夫されたアイデア発想法について例示して下さい。

記載欄



設問15

早期出願のためのワンペーパー化対策

パテントMAP検討では、多くの有効なアイデアが多数創出される場合が多い。その種の中かから重要なものは、早期出願が必要になるが、明細書作成に当たって、ワンペーパーでその要件をまとめて提示することは極めて重要である。では、具体的資料として、必要要件をみれなく、簡単に記載が出来る様式を例示して下さい。

記載欄

